

2013年度 前期	リフレクションペーパー
-----------	-------------

学科名	経営ビジネス学科						
科目名	教育相談						
科目区分	教職科目	単位数	2単位	開講時期	3年次前期		
必修・選択の別	選択科目(教職必修科目)						
担当者	小林 美緒						
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校現場での諸問題の現状(文部科学省による定義、具体的発生数・認知数等)について、実態を説明できる。</li> <li>・上述の諸問題について、典型的・基本的な対応方法を理解し、具体的に実践することができる。</li> <li>・教育相談に関する用語の意味と基礎的な方法を説明できる。</li> <li>・カウンセリングの基本的理念や技法を説明できる。</li> <li>・子ども理解に関わる主要な心理検査の種類とその特徴について説明できる。</li> </ul>						
日程と内容	<p>4/8 導入講義 ～授業の進め方と概要の説明、成績評価法の提示～</p> <p>4/15 教師に望まれるカウンセリング・マインド ～カウンセリング・マインドとは何か～</p> <p>4/22 教師に望まれるカウンセリング・マインド ～具体的な技法、トレーニング方法～</p> <p>4/29 ～パーソナリティの諸理論、発達～</p> <p>5/13 児童・生徒の理解 ～知能検査～</p> <p>5/20 児童・生徒の理解 ～人格検査、心理検査が備えるべき条件～</p> <p>5/27 児童・生徒の理解 ～人格検査、心理検査の実践～</p> <p>6/3 児童・生徒への対応 ～カウンセリングの基礎技法～</p> <p>6/10 諸問題への対応 ～不登校に対する理解と対応～</p> <p>6/17 諸問題への対応 ～いじめに対する理解と対応～</p> <p>6/24 諸問題への対応 ～非行の問題に対する理解と対応～</p> <p>7/1 諸問題への対応 ～性的問題に対する理解と対応～</p> <p>7/8 障がい児、特別な援助が必要な児童・生徒への理解と対応</p> <p>7/15 進路への指導と援助</p> <p>7/22 養護教諭・スクールカウンセラーの役割と連携・まとめ、他機関との連携</p>						
成績評価基準	定期試験	80%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート	20%	プレゼンテーション				
	課題						
	演習		計			100%	
授業到達目標の達成度	ただテキスト通りに進めるのではなく、最新の報告書やニュース等からもデータや図表を積極的に紹介し、身近なホットピックとして教育に関係する諸問題を理解できるよう留意した。その結果、上述の到達目標について、多くの学生で達成できたと捉えているが、受講態度が極端に悪く最終試験でも不合格(到達未済)となった学生も数名見られた。						
反省点	1回目の授業において、教員採用試験の具体的な試験科目すら把握できていない学生が予想外に多く、本科目の教育相談および教育心理領域の知識が教員になった後の実践の場だけではなく、その前段階である教員採用試験に直結することへの理解を求めるところからスタートする必要があった。「教師としての自分」をしっかりと意識できないまま受講している学生について、より意識づけ・動機づけを高める働きかけが必要であると感じた。						
来年度の計画	上述した教員への意識づけ・動機づけの面をさらに強化する必要がある。また、今年度は数値的データや図表の紹介を多く行ったが、具体的な事例についてもさらに多く紹介することで、身近な問題として思考するための手がかかりを増やすように努めたい。						
授業評価アンケートに対するコメント	数値的な評価においては、いずれの項目も全科目の平均得点を上回るものであり、学生の要望に応えた授業となっていたと捉えている。自由記述においても「話の例えが具体的でわかりやすかった」「喋り方がハキハキして聞き取りやすかった」というコメントが複数見られたことから、授業の仕方自体に問題はないと捉えている。課題として、授業の予習・復習の得点がやや低め(3.8)だったことについて、より具体的に予習・復習の指示を出す等に対応していく必要がある。						
履修登録者数	40名	定期試験 受験者数	37名	合格者数	33名	合格率	89%